



明日の風「小林雅英投手野球教室」開催



12月6日(日)、上野原市宮桂川野球場で第9回小林雅英投手野球教室が行われました。今年、新型コロナウイルスの感染が広がりを見せていたため、小林投手と子どもたちとの交流は取りやめ、実技指導に時間をかける内容で実施しました。北都留地区内のスポーツ少年団と中学校野球部、27チームの代表者2名ずつが小林投手から投球の手ほどきを受けました。“軸足でしっかり立って、腕を大きく振って、もう一球・・・”と。一人ひとりを丁寧に指導していただき、子どもたちの投球フォームがしだいにスムーズになり、力強く変わっていくのが見て取れました。指導に熱が入り、予定時間を30分ほど越えてしまいましたが、子どもたちにとって大きな収穫となりました。子どもたちは最後に小林投手の来季の読売巨人軍での活躍を祈りながらハイタッチをし、お互いにパワーを高め合いました。



「中・高連携連絡会議」及び「小中高連携連絡養護教員部会」開催



12月3日(木)、谷村工業高校(数野均校長)洗心館で生徒の健全育成をめざす中・高連携連絡会議が行われました。都留市内及び西桂町の各中学校と高校の教頭先生・生徒指導主事等が一堂に会し、各校の特色を含めた取り組みや現在の課題が発表されました。発表内容についての質疑も行われ、活発な活動に至った経過説明や進路に対する要望などつっこんだ討議がなされました。さらに、これからの中・高の連携のあり方についても意見交換がなされ、地域の子どものそれぞれの学校生活をスムーズに行えるようにつなぎを充実させていく方向の話し合いとなりました。

11月11日(水)、南都留教育会館で富士吉田地区小中高連携連絡養護教員部会が行われました。今年度から始まったこの会は、小・中学校と高校・支援学校の養護教諭が交流を進めることによって、地域で育つ子ども一人ひとりの成長を見守り、縦の協力体制を作っていく目的を担っています。最近、各学校内だけでは対応の難しい事も多く地域との連携が重要視されています。さらに長いスパンで地域の教育活動の課題を見つけ、掘り下げていく事ができれば活力のある地域づくりが生まれます。今後の活動の進展を期待しています。



第2回 南都留教育相談ネットワーク会議 開催



12月16日(水)、南都留合同庁舎で第2回南都留教育相談ネットワーク会議が行われ、富士東部地区で児童生徒の教育相談に係わる関係機関の担当者が集まりました。4つの機関の事業内容や社会的役割の実践から、地域や家庭で起きている教育上の諸問題の解決に向けて、各機関が熱心に取り組んでいる姿が浮かび上がってきました。教育相談は心理的、経済的な側面を持ち、一つの機関だけではなかなか解決の糸口が見つかりません。他地域や行政機関との連携を進めることで解決の道が見えてくる現状も確認されました。全体を通して、各機関の仕事の中に共通の課題も見え、お互いに連携をとる必要性が深まりました。

シオジ森の学校 森で楽しもう 第7回 開催



11月28日(土)、大月市真木の間明野公民館で「シオジ森の学校 Bプログラム 森で楽しもう⑦」が行われ、9家族26名の親子と6名のスタッフが参加しました。この日は今年度最後の活動で、「森の時計をつくろう」のテーマでオリジナル時計の製作を行いました。文字盤は端材(タモ、ナラ、シナ等)を利用して、やすりで表面をていねいに磨いた後、ニス塗って仕上げました。時刻文字は森で集めてきた木の実を埋め込んで作りしました。伊藤仁先生の指導の下で子どもたちそれぞれがイメージした形の時計が完成しました。また、これまでのプログラムの中でまだ完成していなかったテーブルや巣箱作りに挑戦している子どもたちもいました。サンダーやドリル、ノコギリを使って木に触れながら加工し、ものづくりを楽しんでいる子どもたちの目はとても輝いていました。



明見地区でボランティア研修会 開催



10月30日(金)夜、明見中学校(鷹野貴雄校長)で富士・東部地区ボランティア研修会が行われました。明見地区では昨年度から学校支援地域教育協議会を立ち上げ、明見小学校と明見中学校の教育活動を地域で支援しています。この日は、全国体験活動ボランティア活動総合推進センター・コーディネーターの橋本洋光氏を招き、「学校支援ボランティアの先進的な取り組み」と題して講演会を行いました。学校応援団の目的や新しい学力観を説明した後、学校ボランティアの4つの型(施設メンテナンス型、ゲストティーチャー型、環境サポーター型、学習アシスタント型)の中で、明見地区では前者の3つの型の協力が実践され、子どもたちを地域が育てていく体制ができているとの指摘があり、さらに余力があれば学習アシスタント型も試みてほしいとアドバイスをいただきました。子どもたちや地域の将来を考える良い機会となりました。



ことぶき勸学院南都留学園 文化展 開催!



12月4日(金)から6日(日)まで、ぴゅあ富士を会場にしてことぶき勸学院南都留学園の文化展が盛大に開催され、1,2年生の110作品が展示されました。この文化展は、生徒が実行委員会を組織し、作品募集・会場設営・開会式・閉会式等の準備を進めてきました。生徒の主体性と独自性を尊重したすばらしい活動として、南都留学園の伝統的な行事となっています。展示された作品を見ると、どの作品にも制作した人の思いが伝わってくるものが多く、見学に訪れた方からも高い評価を得ることができました。3日間でのべ100人の方に参観していただきました。今後もこの活動をステップにして、自主的に学び充実した生きがいの創造と地域文化の振興の担い手としての資質を向上させていきたいと思えます。



桂高校 文化局地域交流会 開催



12月5日(土)、桂高校(天野正校長)桂晟館ホールで文化局地域交流会が行われました。今回で21回を数え、校長先生から“地域の方にも文化局の香りを感じ取ってほしい”とのあいさつで始まりしました。地域の老人クラブ、地域団体(コーラスグループ)、市内中学生など100名余が訪れ、家庭科クラブの手作りお菓子や飲み物も用意され、アットホーム的な会となっていました。第1部の特別出演発表では、澤田洋一先生の指揮の下、3つのコーラスグループが見事な歌声を披露しました。第2部では桂高校文化部の放送部、箏曲部、演劇部、吹奏楽部が毎日練習を積んできた成果を発表しました。そこには高校生の新鮮な表現や澁刺とした躍動感がありました。また、ホールへの渡りには美術部や文芸部等の作品も展示されていて、文化の香りが漂い、地域や学校の活力を感じることができました。



都留文科大学で講演会 開催



10月24日(土)、都留文科大学地域交流センタープロジェクト研究グループ「暮らしと仕事ネット」主催で、社会福祉法人「ひとふさの葡萄」の高見澤馨理事長による講演「トータルケアシステムの構築を目指して」が行われました。この法人は現在、自閉症や軽度発達障害児・者の通所授産施設やデイサービス、学童保育など幾つかの施設を持ち、複合型福祉施設として事業を展開しています。障害を持った人と持たない人が共に暮らしていく仕組みづくりを目指しこれまで奔走してこられたお話はパワフルで、積極的にできることを推し進め結果を残してきた自信も感じられました。講演の後、出席者で情報交換を行いながら地域の体制作りには何が必要であるのかを話し合いました。幼児期、学童期の支援は徐々に進みつつあるけれど、青年期以降の支援は、今後福祉行政も含めた検討が必要であると感じました。

「明日の風」・「富士の光」掲示板(南北都留)

★ 谷村工業高等学校 教育実践公開發表会

期日:1月25日(月) 12:40~

場所:都留市文化ホール(びいほホール)

★ 富士北稜高等学校 生徒発表会

期日:2月6日(土) 13:45~

場所:富士北稜高校 体育館

○ 上記掲示板についての問い合わせ先

富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ

TEL 0554-45-7841 (FAX 45-7823)

★ SSH研究発表会・公開授業

期日:2月10日(水) 11:10~

場所:都留高校

★ 「明日の風」 アスリート実技講習会

期日:2月13日(土) 9:00~

場所:大月市営陸上競技場

★ 第3回教育相談ネットワーク会議

期日:2月17日(水) 14:00~

場所:都留文科大学 1号館208

